

コミュニティ静岡

あなたのまちの
コミュニティ活動情報誌

2015
4月
No.138

さあさあ、チンドン屋のお通りじゃ! 三井チンドンドリームクラブ(掛川市)



「美しき天然」や「みかんの花咲く丘」の曲に乗せて行進

▼掛川市大東学区で活動する「三井チンドンドリームクラブ」はシニアクラブのメンバーで結成され、今年で活動5年目を迎える平均年齢74歳、最高齢83歳の元気な団体である。

▼きっかけは、老人の孤独死が社会問題となり、「この地域からはそんな人を出したくない。皆で楽しく過ごそうではないか」と話し合った結果、チンドン屋で明るく楽しく過ごせる場を作ろうと発足した。

▼月2回は地元の公民館で練習を行い、老人ホームや幼稚園などへの慰問活動をしている。ギターやアコーディオン

などの陽気な音色に園児も高齢者も加わり、笑顔のチンドン行進が始まる。その他に、合唱や寸劇、腹話術などを披露し会場の皆さんと一緒に楽しんでいる。

▼笑いを引き出す素振りや衣装に工夫を凝らし、演じる自分たちも「今を楽しく生きよう」と張り切る毎日。足腰が痛いと言いながら、それもリハビリのつもりで練習に慰問にと生き生き活動している。

◇代表：尾白幸男さん（問合せ・☎0537-72-2494）

【情報提供・永田稔男】

Contents No.138

- 各地の活動 ●掛川市……………1
- クローズアップ ●あさり復活!みんなで元気な地域づくり(西伊豆町) …… 2~3
- 各地の活動 ●東伊豆町・静岡市・御前崎市・菊川市・磐田市 …… 4~5
- 地域訪問記 ●地域の子どもは地域で育てる~親子ふれあいの部屋~(掛川市) ……6
- コミねっとから ●キラリ!コミねっと……………7
- コミ推協から ●コミュニティ・フォーラム2015を開催しました ……7
- コミュニティカレッジ、活動集団育成事業のお知らせ ……8



クローズアップ

あさり復活！みんなで元気な地域づくり

安良里自治会まちづくり委員会あさり復活部会（西伊豆町）

夕陽日本一の西伊豆町。まちづくり委員会のあさり復活部長の水口さんは、故郷を思いリターンした一人である。豊かな自然とカツオ漁でにぎわったかつてのまちに東京では味わえなかった安らぎと温かさを感じた。あれから50年、安良里の高齢化率は50%を超え「限界集落」の仲間入りをしたが、地域の元気は失ってはならないと思っている。

干潟の環境改善と地域の活性化

平成20年、まちづくり委員会による全世帯に対するアンケート結果では、多くの人が安良里の文化・伝統に対して誇りを抱いている一方で、港が汚いなど身近な環境に問題を感じていると回答した。このことから、環境の改善と地域の活性化や住民の支えあいを目的に、みんなが楽しんでできる「あさりの復活」をメイン活動とする、あさり復活部会がスタートした。

かつて安良里港の奥にある浦上干潟には天然あさり、アカテガニ、シオマネキ、バカガイ、シャコなど多様な生物が生息していた。近年、安良里の山から幼生を水中に放つために海に移動するアカテガニが道路で車に潰された姿を見かけるようになった。また、いつの間にか干潟で採ったあさがり食卓に上る日常風景も失われていた。

安良里産のあさりを目指して

会員は、自治会役員・船長・議員のOBなどさまざま。現在27人が中心となり、春から夏にかけて潮時をみながら作業を行っている。30年程前から、岸壁や船着場の建設や生活排水による汚水のため干潟が出来にくくなり、天然あさはり絶滅状態となっていた。あさり



土壌改良作業：学生ボランティア（IVUSA）さんと一緒に



ケアシェルをコンテナに入れ干潟に設置

復活を目指し久しぶりに訪れた干潟は、昔の三分の一ほど、石がゴロゴロしてヘドロがたまり、想像を超えた荒れ方にメンバーはたじろいだ。

きれいな海を取り戻す第一歩として、まず住民が協力して海岸のクリーン作戦や側溝の清掃を行った。また、海に関心を持ってもらうために「海藻おしぼ教室」の開催や、あさり再生事業についての座談会を開くなど住民の理解を深める活動も実施した。

また、三重県の浦村で指導を受け、干潟に鉄炭団子を入れ、カキ殻を加工した土壌改良剤である「ケアシェル」による育成など試みる。干潟でのあさりの成育率は5%ほど。海上いかだにケアシェルを垂下げ稚貝を育て始めると60%は育つ。しかし、海上いかだのケアシェルで生まれ干潟に着底した稚貝は、エイの食害に遭うなどして、地元生まれのあさはりはまだまだ僅かしかない。

年に2回ほど行う干潟の土壌を掘り起こして改良する作業は重労働である。ヘドロが改善され少し希望が見えていた矢先に大雨災害にあい整備した干潟が土砂で埋まり、稚貝はまた絶滅状態、最初からやり直した。「頑張ってね!」「まだやっているのか、やきたいもない!」いろんな声が聞こえてくるが、希望は見えている。

3月に浦上干潟であさりまつりは開催される。あさり掘り大会と子どもたちによる稚貝の放流、あさりの味噌汁無料サービスには年代・性別を超えて皆こぞって参加する。年に1度だが、皆が喜んでいる姿はやっていて良かったと思う瞬間だ。

今はまだ、稚貝を購入し育てているが、将来は産ま



海上いかだのケアシェルで育ったあさり

れも育ちも安良里のあさりで開催したい。現在、活動を支える新たな住民の参加を募っている。

あさり復活作業を通して、向こう側にみるもの

あさりの定着が進まないなか、事業を続けていくのは大変なこともあるだろう。しかし真の目的は「あさり復活を目標に地域がつながり、皆で環境を取り戻すこと」である。小さなことでも参加して人と触れ合い、皆で声を掛け合い、顔が見えたら誰もがうれしい。あさりを通して安良里の住民が更に結束し、高齢化に負

けない元気な風が吹くことを願ってやまない。

安良里に住む人の気質は、人にも自然にもいたわりの心を忘れず、そしてちょっと控えめ。田舎暮らしを望む若い世代が求めるものは、安良里にはたくさんあると感じた。

◇代表：水口勝弘さん（問合せ・☎ 0558-56-0763）

【情報提供・鈴木深雪】

 レポート・萩原佐枝子編集委員



子どもたちによる稚貝放流

■推進専門委員コラム

古くて新しい「シェア文化」 “分かち合い”と“持ち寄り”

合同会社デザイン・アープ代表 川口良子 氏



シェアハウス、シェアオフィス、カーシェア、シェアウェア、etc. 最近「シェア文化」が広がりを見せている。背景には、所有より利用を重視する価値観の浸透や、使い捨てではなく、良いものをみんなで大事に使い継いでいくことを大切にするとされる。

古くて新しいコミュニティ

シェアハウスとは、キッチンやリビング、シャワーやトイレなどは共同、部屋は一人一人が個室を利用し、一軒の家を複数人で共有して暮らす賃貸住宅で、ちょっと前の下宿や、落語の「八つぁん」「熊さん」の長屋に近いものを感じたりするのだが、「いつでも誰かがそばにいる感覚でいながら、最低限のプライバシーを保つことはできる」そんな、人とのつながりを重視した暮らし方を選択する若者が、都心を中心に増えているという。ライフスタイルの個人化が進む中で、欠落させてきたものへの希求なのだろうか、古くて新しいコミュニティの萌芽を感じる。

また、シェアオフィスは、「異業種の人との出会い」

が魅力であり、今まで出会うことのなかった業界の人と出会い、会話ができるのが非常に有意義だという。小さな事業者のチャレンジの場でもあるシェアオフィスには、「持ち寄り」と「交流」による価値の創造にも期待が寄せられる。

「シェア文化」への期待

インターネットなどの情報の世界では、自分や他人の個人的な情報を広くシェアし過ぎることへの危うさが懸念されたりもするが、何をシェアするにしてもルールは必須である。信頼関係をベースに、一定のルールに基づき、物、事、情報、場を分かち合い、あるいは、持ち寄り共有することで、つながりを深めて新たな価値を生み出していく。そうした「シェア文化」はコミュニティの醸成や暮らしの質に好影響をもたらすものとして、その広がりを期待したい。

さらに言うならば、そもそも、私たちは、公の空間、大きく言えば地球環境をシェアしながら生きており、それらに貢献するために力を持ち寄ることの大切さへの気づきにつながればと思う。

まちから・むらから

● 東伊豆町



ベンチ製作の様子

第2の人生、町の活性化に貢献中

愉快的仲間たち

▼平成15年、稲取観光協会で行っていた町づくり基盤設備活動が低迷しており、その事業を支援しようとJAや郵便局職員、教員、居酒屋店主などの多様なOB

を新設するなど、日頃からどこに何が目に見えるか目を光らせ、活動の後の一杯から次のアイデアが生まれている。発足して12年目になり、会員も高齢化しているが仲間は増えている。特に募集の呼び掛けをしていないが、会員の繋がりや活動に賛同した方が入会している。

仲間が集まり「観光力は地域力」をモットーに、これからは訪れる人にも住んでいる人にも喜ばれる地域づくりをしようと「愉快的仲間たち」が結成された。

60歳を越えた14人が製作したベンチは80基余り。活動するに当たり、最低限の材料費は協会などからいただくが、基本的にボランティアである。何よりも、集まって仕事ができる幸せ、会話ができる幸せ、人に喜ばれる幸せを感じられ、充実した老後を送っている。

▼観光客と地元住民が座って話ができるようにと町中に2mのベンチを設置したり、バス停の壊れたベンチ

◇代表：西塚孝男さん（問合せ・☎0557-95-2943）

【情報提供・鈴木邦夫】

● 静岡市

藁科地域に太鼓の音を届けて20年

▼和太鼓 鼓鼓は、主に藁科地区在住者で構成され藁科生涯学習センターを拠点に活動している。

和太鼓 鼓鼓

に頭を悩ませることもある。

特徴は、20代から60代までの幅広い世代が在籍し、世代間を越えて男女の区別なく皆が対等でいられる活動しやすい会であること、またどんなことでも気軽に相談でき、太鼓以外での結びつきも大事にしていることである。

今後息の長い活動を続け、分からない所は補い合いながら技術を高めるとともに、藁科地区に伝わる民話や史跡（木枯ノ森など）をひもといて太鼓で表現できるよう、技術と音を身につけていきたい。



練習日：毎週火曜日の夜 見学OK

▼太鼓は音が響くため練習場所に困る団体もある中、当会は近隣の方々の理解と協力により練習場所を確保できている。そのことに感謝し、地域の催しに呼ばれた際には、お礼の気持ちを込めて太鼓をたたく。

▼活動が20年以上続いている秘訣は、「個々に太鼓を楽しんでいること」「来るもの拒まず」と代表はいう。

◇代表：重田めぐみさん（問合せ・☎054-285-9255）

【情報提供・酒巻みち子】

皆、現役であるため、出演依頼がくると奏者の確保

● 御前崎市



人気のしっぽ取りゲーム

郷土愛を育て、佐倉の未来を託す

桜ヶ池 悠遊クラブ

▼御前崎市佐倉地区にある桜ヶ池池宮神社で毎年3月に「桜っ子まつり」が開催される。主催する桜ヶ池 悠遊クラブは、桜ヶ池町

前でも自分を表現できる心を育てようと始まった。この日はとにかく子供が楽しむ1日。ステージでの演技、演奏、ダーツや、しっぽ取りなどのゲームに参加できるのは子どもだけ。事前に幼稚園や小学校経由で、無料のやきそば券とゲーム券が配布され200人以上の子どもが興じる。当日のスタッフやシャトルバスの運行などは、PTA役員、町内会の三役、地元企業などの協力によってできている。

内会住民で中高年の男性のみ（50～70歳）で構成される有志団体。普段は会員相互の親睦を目的に、防災センター・グラウンドゴルフ場などの環境改善活動を行う他、年間を通じて町内会活動への参加、協力をしている。

▼子どもの頃の楽しい思い出が郷土愛を育て、将来、地域での活動をするきっかけになるためにもこの活動を長く続けていく。

▼桜っ子まつりを地元の由緒ある神社で開催することにより、子どもたちに郷土への関心を深めてもらうとともに、友だちや地域の大人と触れ合うことで、心豊かで人

◇代表：水野 寛さん（問合せ・☎0537-86-5036）

【情報提供・塚本まゆみ】

各地の活動情報



● 菊川市



平川の民話「本間様と善勝寺のキツネ」

平均年齢65歳以上、今日も笑いを届けます ひらかわ劇団

▼地域の高齢者支援などに取り組む地域サポーター「おいでよお平川」は、年4回開くサロン活動に参加する高齢者の皆さんに、もっと楽しんでもらい、かつ大いに笑ってもらおうと、メンバーを中心としたひらかわ劇団を立ち上げた。

▼会員は12人。脚本から衣装まで全て手作りで、オリジナリティに溢れた内容を心掛けている。初期は、高齢者向けにと「オレオレ詐欺」「悪徳商法」など題材

にしていたが、地域の偉人や民話なども手掛けるようになった。

団員の平均年齢は65歳以上。話の筋は脚本に沿っているものの実際にはアドリブが多く、台詞は絶えず変わっているがそこは御愛嬌。大いに笑ってもらっている。

▼団員皆で考え、話し合い、作り上げていく行程は楽しく、仲間がいることは素晴らしいと感じている。ギリギリの資金での運営など大変な部分もあるが、今日も団員自ら楽しみ活動を続けていく。

◇代表：宮城君代さん（問合せ・☎ 0537-73-2800）

【情報提供・橋本哲夫】

● 磐田市

貴方も非日常を楽しみませんか？

▼スペイン語で「希望」という意味のエスペランサ。会員は20代の子育て世代から70代までと幅が広く、フラメンコで健康、老化防止と親睦を図っている。地域イベント参加はもちろん、老人ホーム慰問や市内小学校の国際交流「外国の文化を知ろう」という授業のお手伝いで小学校に出向き、子どもたちと一緒に踊るなど地域交流も行っている団体である。

▼会員は子育てや家事、仕事や親の介護など忙しい時間をやりくりしながら練習に励んでいる。何とんでもステージに立つ時は、普段しないつけまつ毛を付け、バッチリ綺麗に化粧をし衣装を身にまとい踊り子の世界に浸ることができ、非日常を味わえるのが魅力である。また、元気を失っていた方がフラメンコを通じて人と交流することにより、練習

エスペランサ

に参加するごとに明るく前向きになっていった。

▼入れ替わりもあるが、良い雰囲気を保ちながら今年で14年目を迎えることができた。「年齢も立場も違うけどフラメンコで結ばれた仲間と、これからも楽しく続けていきたい」と代表は言う。



路上パフォーマンスで拍手喝采

◇代表：長尾幸江さん（問合せ・☎ 0538-34-7450）

【情報提供・森岡たか子】

地域活動情報

この詳細はホームページでご覧になれます（アドレス <http://www.sizcom.jp>）

No	市 町	活 動 名	主 催 者	月 日・場 所	
1	裾野市	千福が丘ハートサロン	千福が丘ハートサロン	毎週金曜日・土曜日 10時～17時 http://www.senpukugaoka-artsalon.com/ 千福が丘アートサロン	
2	藤枝市	藤まつりを市民活動で盛り上げよう	似顔絵・ウフフ	平成27年 4月18日～5月5日 藤まつり開催期間中6日間出店 http://nigaoeufufu.web.fc2.com/ 藤枝市蓮華寺池公園内	

地域訪問記

地域の子どもは地域で育てる ～親子ふれあいの部屋～

原谷地区福祉協議会（掛川市）

“地域の子どもは地域で育てる”最近、よく聞く言葉であるが、全国的には孤立した母親も多く存在し、育児ストレスから育児放棄、児童虐待に至るケースもあるという。そんな不幸から親子を守る掛川市原谷地区の取り組みについて、福祉協議会の豊田昌勝部長とベテランボランティアの山内幸子さんに取材した。

掛川駅からのんびりと走る天竜浜名湖鉄道（天浜線）に乗って6駅目に原谷駅がある。その駅近くの原谷地域生涯学習センターは毎週水曜日笑顔があふれている。というのは福祉協議会が主催する「親子ふれあいの部屋」が開かれているからだ。今日も9組の親子が参加していた。

「親子ふれあいの部屋」



明るく、楽しく、自宅のように…

「親子ふれあいの部屋」は平成12年に子育て支援の一事業として始めた。いや、始めたというより、始まってしまった。というのが正しいのかもしれない。というのはセンター近くに遊びに来ていた子どもに「寒いから部屋の中で遊んだら」と声をかけたのがそもそもの発端だからだ。

それ以来地域住民の協力もあって大勢の子どもたちがここで育っていった。この部屋の住人は0歳から3歳までの子どもとそのお母さん。情報交換をしたり、お互いの悩みを打ち明けあったり、子どもたちとともにお母さん方も育っていく。

季節感や伝統行事を遊びに取り入れ、時にはお母さん方の相談相手になったり、優しく見守ってくれるボランティアの存在も大きい。

存続の危機

数年前、この部屋も存続の危機があったという。

近くの幼稚園で同様の事業を始めた時だ。部屋の住



そんなに見つめられると照れちゃう

人がごっそりと幼稚園の方に行ってしまった。しかし、しばらくたつと再び住人が増え、危機を脱した。「チラシを作って配布するなど努力もしました。その内、こちらが良いって戻ってきてくれたの。世代間交流があるのがいいみたい」と山内さん。

参加していたお母さん方にも話を伺った。初めて参加した方や、引っ越してから来るようになった方もいたが、来られる時だけ来ればよいこと、皆さんと触れ合えること、色々な情報が得られること、皆さんが温かいことなど「また来よう」という気持ちになる空気があると話してくれた。実家がこちらだということで、遠くは湖西市や森町から参加した方もあるということからも、この部屋の居心地の良さが感じられる。

ボランティアの楽しみ

この部屋の運営に欠かせないものがある。ボランティアの方々だ。月4回開催していても分担が決まっているので1人がお手伝いするのは月に一回。負担感をあまり感じないどころか、子どもたちの笑顔や、お母さん方からの“ありがとう”が喜びに変わる。発足当時から継続している方も6人ほどいる。当時3歳だった子どもも今は高校生。子どもたちの成長も喜びの一つだ。まさに“地域の子どもを地域で育てている”この原谷地区は、冒頭書いたような不幸なニュースとは、無縁であろう。

◇代表：豊田昌勝さん（問合せ・☎ 0537-26-1476）

【情報提供・山崎智行】

レポート・三戸部 孝編集委員

積極！精力！
駅南コミュニティ

キラリ！コミねっと

コミカレ・ねっとわーく会員の活動紹介します！

地域活動団体の中心的存在として

駅南コミュニティ推進会（富士市）

富士市駅南地区からコミュニティカレッジを受講した仲間で作る「駅南コミュニティ推進会」は、駅南地区各種団体の支援により、平成11年に発足し、現在会員数18人。

各団体の行事に積極的に参加し、地域の福祉施設のお祭りの会場設営・進行など行っている。老人介護施設においては、折り紙指導を中心に年3回の慰問を実施。また、地域の夏祭りは準備・受け付け・接待など精力的に活動している。

3年前から地区の文化祭の展示部門に参加し始めた。初年度は「東海道53次浮世絵と現在の比較」をテーマに研究発表したところ、第2小学校の先生の目にとまり、小学校4年生を対象とした出前講座を依



慰問で使う折り紙の準備

頼された。

今年度は、「郷土の成り立ちと歩み」をテーマに、先人たちの苦労や現在に至った経緯を年表にまとめた。当日は解説員を常駐させ、好評を得た。



富士川の雁がね堤など調べ年表に

活動は止まらない

会が発足して丸15年。会員が減ることなく活動している。なぜなら毎年コミュニティカレッジには、目星をつけた人を送りだしているからだ。

いかに地域活動に貢献できるか、私たちの活動を知ってもらうためにはどのような活動が必要かを念頭に置きながら運営し、地域の中で中心的な役割を担っている。

コミュニティ・フォーラム 2015 を開催しました。
地域で紡ぐセーフティネット

- 2015年2月14日（土）
午前10時30分～午後3時
- プラサヴェルデ・コンベンションホールB（沼津市）

地域のコミュニティが、居場所づくりや介護する人の支援、子育てのお手伝いを通じて、さまざまなセーフティネットを作り上げていくことができないかと「地域で紡ぐセーフティネット」をテーマに開催。当日は天気にも恵まれ、県内各地から約350人の参加により盛大に開催しました。



優秀賞受賞の皆様、おめでとうございます

基調講演「雨の向こうはいつも晴れ」

午前の部は、表彰式の後、夜回り先生でお馴染みの水谷 修氏に「雨の向こうはいつも晴れ」と題した講演を行っていただいた。「実践を通しての重みがあり、改めて関わることの意義を教えてもらっ

た」「説得力のある、流れるような口調のお話に、時間も忘れてしまうくらい面白かった。」など好評でした。

午後には、加藤学園チアリーダー部の元気いっぱいの踊りが披露され、参加者も一緒に踊る演出も用意され、会場を沸かせました。



水谷 修氏

地域で紡ぐセーフティネット

パネルディスカッションでは、NPO 法人くらしまち継承機構理事長の伊藤光造氏をコーディネーターに、異なる分野に取り組みされている4人の方を



パネルディスカッション

パネリストに迎え、地域コミュニティとの連携や具体的な展開方法などについて議論が行われました。

コミねっとから

コミ推進から

コミ家

のりぎきりえ



編集・発行

静岡県コミュニティづくり推進協議会
〒420-0856 静岡市葵区駿府町1-70
総合社会福祉会館3階
TEL 054-251-3585
FAX 054-250-8681
URL <http://www.sizcom.jp>
E-mail sizucom0829@po.across.or.jp
※地域情報お寄せ下さい。

地域活動に関心のある方へ!

コミュニティカレッジ開催します

当協議会では、コミュニティづくりの大切さ、地域での話し合いの進め方など、コミュニティ活動を進める上で必要なスキルや知識を学ぶ講座「コミュニティカレッジ」を毎年開催しています。

地域で活動されている方や地域活動に関心のある方はぜひ御参加ください。

なお、申込受付等の詳細につきましては、関係機関等を通じて別途改めて御案内します。

お問い合わせ、お申し込みは当協議会へ。



回数	月 日	テーマと時間		会 場
		10:00~12:00	13:00~15:00	
1	7月25(土)	・開講式 ・自己紹介/アイスブレイク	講義 「コミュニティづくり」	県総合社会福祉会館 (静岡市葵区)
2	8月8日(土)	講義「コミュニティリーダー」	講義「話し合いの進め方」	
3	8月中	活動集団現地訪問(県内3カ所選定)		1カ所に参加
4	9月12日(土)	ワークショップ「コミュニティ実施計画づくり」		県総合社会福祉会館
5	9月26日(土)	10:00~11:30	11:30~12:00	
		基調講演「未定」	閉講式	

地域の活動応援します

コミュニティ活動集団育成事業まもなく募集開始

趣 旨

この事業は、人々が協力し合って住みよい地域をつくるために活動する集団を「コミュニティ活動集団」として指定し、活動に必要な経費の一部を助成することによって、地域の先導的役割を担う活動集団の育成支援を行うものです。
お問い合わせ、お申し込みは当協議会へ。

指定の期間 毎年度4月から翌年度3月までの2年間とします。

活動経費の助成 募集集団数15集団。活動経費として1集団当たり、初年度7万円、翌年度3万円を助成します。

活動集団の指定 申込みに対してその内容を審査・選考の上、指定します。

安心して活動するためにスポーツ安全保険にはいりませんか!!

傷害保険

急激で偶然な外来の事故により被った傷害による死亡、後遺障害、入院、手術、通院を補償

※熱中症および細菌性・ウイルス性食中毒も対象となります。ただし、AW区分で加入の場合でも「団体活動中およびその往復中」のみが対象となります。

賠償責任保険

他人にケガをさせたり、他人の物を壊したることにより、法律上の損害賠償責任を負うことによって被った損害を補償

突然死葬祭費用保険

突然死(急性心不全、脳内出血などによる死亡)に際し、親族が負担した葬祭費用を補償

※AW区分で加入の場合でも「団体活動中およびその往復中」のみが対象となります。

平成27年度加入受付中

5人以上の団体でご加入ください

【掛 金】子ども・大人:1人800円から(年額)
【保険期間】毎年4月1日から翌年3月31日まで

(公財)スポーツ安全協会静岡県支部
TEL 054-262-3039